

おりこうさんな 彼女

岡本 悠

太は、恋の病に落ちた

10代の頃、俺は、友人と立川のキャバクラに行った

チョコンと座った綺麗な女性

西山喜久恵に似ていた

彼女は会った瞬間から、俺のハートを射止めた

名前は、えみ、と言った

俺は、その頃、金使いが荒かった

高価な服を買い

高価なバッグを買い

高価な香水をつけていた

家で何気なく過ごしていたらメールが届いた

「待ってます」

俺は、嬉しさで興奮した

2回目に会った日、えみ、は、風邪をひいていた

寒気がする、

と言う

ずっと、そんな調子だった

俺は、素直に、かわいそうに思った

俺は、その頃、プロレスに夢中だった

だから、メールの着信音は

武藤敬司の

「アウトブレイク」

にしていた

この、アウトブレイクの曲が流れるたびに、俺は飛び上がった

彼女はごく紳士的に、短いメールを送ってきたが

俺は、メール容量オーバーしても

それも何枚も書くほどの

恋文を送っていた

今、思えば、若気の至りとはいえ

無神経だったな、と思う

えみ、には、最後まで、俺の彼女？ とか、恋人？ とかは聴けなかったわけだが

だんだん、同伴出勤し たり、

デートもするようになった

えみ、は、ある日、髪を茶髪にしたらと言った

俺は、茶髪にしたことがなかったが、

そのまま、茶髪にした

そこは、渋谷の美容室で

えみ、は、その美容師のことが、好きな様子だった

なぜ、俺を、その美容師に、切らせたかの意図はわからなかったが...

茶髪にした俺を見ると

えみ、は、「茶髪、いいじゃん」と言った

しかし、俺は、すぐにまた黒い髪に戻した

2人はいい仲のようではあったが

いつも、ケンカばかりしていた

俺が、食事屋でエスコートした時

ドアに挟まって、とまどっていると

えみ、は、「ださーい」という感じで笑った

他の客も、それを見て笑っていた

俺は、おいしい、と思ったが、そういう笑いは通用しなかった

俺は、その頃、鬱病と診断されて、薬を服用していた

だから、えみ、と食事する日

物凄く、気分が落ち込んだ

だから、えみ、の、目の前で薬を飲んだら

次第に、元気になった

えみ、は、信じられないくらい元気になった太を見て

「すごい、元気になってんじゃん」

と、反応した

俺と、えみ、は、学生時代の進路が似ていた

中退、進路学校、大検、大学

そんな感じだった

えみ、と、新宿でデートをした

ABC マートの前で、待ち合わせたけど、なかなか来ない

約束時間の少しあと、えみ、が来た

とても綺麗な女性とすれ違ったが

俺には、えみ、のほうがいいと思った

買い物中、えみ、と、ケンカした

何を話しても、えみ、は、無視をして黙っていた

俺はイラついたので、

軽井沢で買った、宝石の飾りのプレゼントを

手渡すと

1人で駅のほうへと向かった

駅で俺は泣いた

するとメールが来た

「どこに行ったの？」

「今日は、もう帰るよ」

そんな感じだった

コンタクトレンズを落としたが、すぐに見つかった

意外と長い関係だった

ある日、東京ドームに

浜崎あゆみ、のライブを観に行った

御茶ノ水で待ち合わせたが

2人共、違う改札口で待っていた

俺が、気づいてそちらにいくといた

もう ライブは始まっていたが

京タコ屋のたこ焼きを持ち込んで

盛り上がる客席に忍び込んだ

俺は「サーリアル」が好きだと言ったが、

えみ、は「ボーイズ・アンド・ガールズ」が好きだと言った

...

帰りは一緒に、電車で帰った

その当時は、身体の期待なんてなかった

そういう自信すら、やり方すら、知らないガキだった

渋谷についた時、「送るよ」と言ったが

えみ、は、「降りて」と警戒した

でも、降りる時、「ありがとう」と、言ってくれた

渋谷の改札口で、柱によりかかっていると、

メールが来た「今日は、楽しかったです」

俺は、また、泣いた

日は流れた

えみ、は、働き先を、拝島に変えた

だから、メールが来て行くと、遠かったが

その日は、雨が降っていた

相当、遅刻したが、

えみ、は、ポツンと雨宿りしながら、立って待っていた

「ごめん」

「遅かったね」

そして、店へ向かった

えみ、も、名前を違う名前に変えていた

でも、俺は、えみ、で呼んだ

帰り、店を出たが、まだ、一緒にいたかったので、外で待った

でも、ずっと出てこない

まだ、待ったが出てこない

いよいよ、ボーイの男が「どうされました？」と言うので

「えみ、さん、を待ってるんですが」と言うと

「えみ、さん、は、裏から帰りました」と言った

俺も、諦めて、遠い雨の帰り道を辿った...

軽井沢の別荘に1人でいた

ここならヤレルかもしれない、と思った

メールをして、「軽井沢に電車で来てよ」と誘ったが

「それは、無理だよ」

と、軽くいなされてしまった

別れは、あっけなかった

えみ、が、メールで、体調が悪いと言う

「私の家の近くの病院を探して？」

と、言われたので、あちこちにかけて

なんとか見つけて、えみ、に、報告すると

えみ、は、心療内科に向かった

なんとか、薬をもらえたようでホッとしたが

えみ、から、メールが来た

「この薬飲んだら、眠くなっちゃったから、もう捨てたよ」

ただ、それだけだった

...

俺は、なんとなく、メールの番号を解除した

そして、2人の関係は終わった

俺は、20歳の誕生日に、インディーズレーベルでCDを発売した

7曲入りの最後の曲に、えみ、との思い出をつづった曲がある

「立川の blues」

えみ、の飼っていた犬の名前は「チョコ」といった

俺も、2匹の犬を飼っていた、おすわりというと、きちんと、おすわりした

「完」